

施設カルテ

施設コード:	0101001	施設名称:	歴史民俗資料館「北原白秋記念館」
--------	---------	-------	------------------

所管課:	教育部生涯学習課	2019年3月1日	作成
		2023年6月29日	更新

1. 土地・建物・施設の概要

基本	住所	矢留本町40-11		緯度	33.158547	経度	130.394129		
	大分類	市民文化系施設			会計	一般会計			
	中分類	文化施設			資産区分	行政財産			
	単独/複合	単独	主施設名		従施設名4				
			従施設名1			従施設名5			
			従施設名2			従施設名6			
			従施設名3						
土地建物	敷地面積	805.00	m ²	総延床面積	963.00	m ²			
施設	避難所指定の有無	指定なし		都市計画	用途地域	その他			
					第1種住居地域	指定なし			
	バリアフリー対応状況	バリアフリー経路			トイレ		障がい者用駐車場		
	段差なし	案内設備・案内所	エレベーター	車いす用	オストメイト	ベビーシート	有無	台数	授乳室
	○	○	○	○	-	○	○	5	-

2. 施設の課題、特記事項等

利用者に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数減少 自然減少が続いており深刻な課題である。 ・ガイダンス 資料館展示、音声ガイド、映像展示、リーフレット、配布用の解説シートを備えているが、提供用の情報が固定化されており、案内及びガイダンスの仕組みづくりを含めたソフト・ハード面の更新・改善、市民協働の取り組みが必要である。 ・多言語対応 増加する訪日客や、主に母国語を使用する外国籍の住民等の利用に対する多言語対応が遅れている。現在は一体的に運営されている北原白秋生家において、4カ国語対応の音声ガイドが整備されている。 ・バリアフリー 駐車場から施設入口までの動線環境及び敷地内の動線環境の整備が必要である。
施設、設備に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○建築から30年以上が経過し、躯体設備が修理、改築、更新の時期を迎えている。 ・建物 鉄筋コンクリートの躯体、外壁材、天井板の劣化が深刻であり、安全管理の観点から早急な調査、対策が望まれる。 ・展示施設 開館以来固定化されており、展示パネル・設備の著しい劣化や、展示資料自体の劣化もみられる。また、主たる収蔵展示資料が近代以降の文学資料である一方で、特別展を企画開催するための展示施設（大型の展示ケース等）が整備されていないことから、一般的に文学資料館施設に求められている多様な企画運営が制限されている。展示構成の見直しを含めて早急に展示施設の改修が望まれる。 ・エレベーター、トイレ、空調、手摺、共有スペースの照明等の基本的な便益設備の老朽化が深刻であり、早急かつ計画的な対策が望まれる。 ・設備更新は安全対策や必要最小限のサービス環境の維持にも必要であるが、省エネルギー化・管理経費削減のためにも必要な対策である。 ・事務室の出入口が1箇所のみで狭いため、火災等の災害時や事件発生時の安全確保が困難であり、早急な非常口の設置が望まれる。
運営に関する事項	<p>平成17年度（2005）まで現在の（公財）北原白秋生家記念財団に管理運営業務を委託 平成18年度（2006）から同財団を指定管理者に指定、利用料金制、非公営、指定管理期間3年繰り返し 入館者の減少に伴う指定管理料及び利用料金等による収入減の影響から、財団の財政基盤が減衰しており、日常の管理運営及び広報周知営業・新規事業企画運営・引継ぎ期間を踏まえた職員採用等の各面で悪循環の環境が発生している。</p>
上位計画等に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財保護法、福岡県文化財保護条例（国指定名勝水郷柳河構成要素及び福岡県指定史跡である北原白秋生家のガイダンス施設として） ○第2次柳川市総合計画前期基本計画 3-1-2郷土愛とおもてなしの心の醸成、3-1-3文化芸術・スポーツに触れる機会の創造、3-3-2水郷情緒が楽しめるこだわりの空間づくり、3-3-3誇りとこだわりのある柳川暮らしの情報発信 その他関係法令、上位・関連計画等
その他、備考	<p>歴史民俗資料館（北原白秋記念館）は、本市出身の国民的詩人北原白秋の生誕100年を記念し、隣接する北原白秋生家と一体的な運営と重要資料の管理を目的に、また水郷柳川観光の拠点施設として設置された。 隣接する北原白秋生家は白秋の全国唯一の生家であり、本市の水郷風景とともに、今なお全国のあらゆる世代に親しまれている白秋作品の源泉であることから、合併後より成熟した本市の関連施策実現のためにも、柳川の顔として相応しい展示環境の整備、バリアフリーや多言語化等の共生社会への対応、市民協働事業を可能にするスペースの確保、また何より施設の抜本的な安全対策が必要である。</p>

